

第1回奈良市幼保再編検討委員会会議録

- ◆ 日 時 平成23年12月1日(木) 午前10時半～正午
- ◆ 場 所 奈良市役所北棟5階第21会議室
- ◆ 委員名簿 奈良市幼保再編検討委員会委員(10名)(敬称略、カナ順)
- | | | |
|-----|--------|--------------------|
| 副会長 | 埋橋 玲子 | (同志社女子大学教授) |
| | 大野 雅代 | (公募委員) |
| | 亀本 和也 | (公募委員) |
| | 古山 周太郎 | (奈良県立大学講師) |
| 会 長 | 重松 敬一 | (奈良教育大学教授) |
| | 辻中 佳奈子 | (弁護士) |
| | 畑中 康宣 | (奈良市PTA連合会会長) |
| | 壬生 裕子 | (NPO法人京都地方自治総合研究所) |
| | 山口 清和 | (奈良市自治連合会会長) |
| | 山本 吉延 | (奈良教育大学教職大学院教授) |
- ◆ 出席者
- | | |
|-----|---|
| 委 員 | : 埋橋委員、大野委員、亀本委員、重松委員、辻中委員、畑中委員、壬生委員、山口委員、山本委員
(欠席) 古山委員 |
| 市職員 | : 副市長、教育長、子ども未来部長、子ども未来部次長、子ども未来部参事、保育課長、教育総務部長、学校教育部長、教育総務部参事、教育総務課長、学校教育課長、学務課長 |
| 事務局 | : 子ども政策課職員 |
- ◆ 傍聴者 市 民 1名
- ◆ 議 事
1. 開会
 2. 委員の委嘱
 3. 副市長挨拶
 4. 委員紹介、事務局紹介

5. 会長、副会長の選出

6. 委員自己紹介

7. 議事

(1) 奈良市の幼稚園及び保育園の現状と課題等について

(2) その他

◆ 開会

- ・事務局が、奈良市情報公開条例及びその指針に基づき、会議を原則公開とすること、会議録のホームページへの公開や会議録の作成のための録音、写真撮影等について了承いただきたい旨説明した。

◆ 委員委嘱

- ・副市長が各委員に委嘱状を交付

◆ 副市長挨拶

◆ 委員紹介・事務局職員紹介

◆ 会長、副会長の選出

- ・奈良市幼保再編検討委員会設置要綱第 4 条に基づき、委員の互選により重松委員が会長に、埋橋委員が副会長に選出された。

◆ 傍聴人入室

◆ 各委員自己紹介

◆ 奈良市の幼稚園及び保育園の現状と課題について

- ・<事務局よりパワーポイントを使い「奈良市の幼稚園及び保育所の現状と課題等」の説明を行う>

◆ 質疑応答・意見

(○…委員 △…事務局)

○ (会長)

- ・事務局の説明について意見、質問はないか。

○（A委員）

- ・ 待機児童数で「第一希望のみを除く」数しか出ていないのは何か理由があるのか。

△（事務局）

- ・ 国への報告の数である。
- ・ 保護者によっては「この園でなければダメ」「その園であれば何ヶ月でも待ちます」という人もあり、それは除いている。

○（A委員）

- ・ 他に保育所の数を増やしてもその数は減らないので除くということなのか。かなりの数の方がいると感じるが。

△（事務局）

- ・ 実際には今の説明の中の **133** 名の倍近くになる。

○（会長）

- ・ **200** 名以上が待機しているのが現状のようだ。

○（B委員）

- ・ 待機児童問題というのは、言葉は悪いが、いつも「待機児童数」というときに何か騙されたような気がする。待機児童問題で一番深刻なのは **0, 1, 2** 歳の **3** 歳未満児である。この割合というか **3** 歳未満、それも **0, 1** 歳と **2** 歳では随分需要が違うので、**3** 歳以上との内訳のデータはあるか。色々なことを組み替えていく時に、基礎データとして必要だと思う。

△（事務局）

- ・ 平成 **23** 年の **11** 月現在、**133** 人の「第一希望のみを除く」待機児童がおり、**3** 歳児以上が **26** 名、**0** 歳児が **48** 名、**1** 歳児 **39** 名、**2** 歳児 **20** 名となっている。「第一希望のみ」の待機児童を入れると **257** 名となっている。

△（事務局）

- ・ 「第一希望のみ」を除いた数を国に報告しているが、市としての待機児童の捉え方としては全体数で考えている。
- ・ 今の傾向としては **5** 割、半分が「第一希望のみ」である。いくら空きがあっても「ここしか行かない」という方が半分いる状況である。また、**0, 1, 2** 歳児の待機児童の数が全体の **8** 割になっているのが現状である。

○（会長）

- ・ 地域別の割合というか、どの地域に集中しているのかはどうか。

△（事務局）

- ・ 東部山間等については待機児童はありません。やはり中心市街地、北西部に集中している。

○（B委員）

- ・ 特に0歳児が多いというのは今の数字が示しているが、奈良市では家庭的保育という制度はどうなっているのか。

△（事務局）

- ・ いわゆる保育ママですね。今はその制度は採用しておりません。

○（B委員）

- ・ 保育ママの制度についてはどういう見解か。乳児の待機児童の解消をしようと思っただら家庭的保育所はかなり大きなカードだと思うが。実際に他市で取り上げている所もあると思うが、奈良市はどうか。

△（事務局）

- ・ 制度は承知している。数人のグループで上手くその制度を利用すれば良いのだろうが、人材の確保の難しさというか、保育士の資格がなくとも研修を受ければ保育ができるという制度であるので、例えば乳幼児の保護者からの安心、安全を確保できるのかという危惧はある。人材確保と「保護者の安心を得、安全を確保できるシステム」の確立がなかなか大変かなと思われる。

○（B委員）

- ・ 「大変かな」ということだが、展望はどうか。

△（事務局）

- ・ 保育ママというシステムの導入は、少し前に一度問題に上がったことがあるが、具体的な方向性は決まっていない。
- ・ 対外的には保育ママは導入しないとやっている時期があった。ただ、最近は待機児童が相当に増えており、今年は昨年と比べると相当な伸びになっているので、検討の中では必要かもしれない。ただ「密室的」ということも議論の中で言われており、そ

のあたりは深く検討していかなくてはいけない部分ではある。

○（会長）

- ・ 保育ママの制度、システムについては皆さん理解できていますか。イメージが沸きますか。必要であればまた説明をしていただきます。
- ・ 具体的に検討するかしないかも含め、数値的に把握しているならば資料等お願いしたい。

○（C委員）

- ・ この検討委員会だが、方向性の検討ということで再編していくのはわかるが、例えば具体的に保育所と幼稚園を一体化して、幼稚園型あるいは保育所型で運営するとか、そういう所までここで議論して成案を練るのか。それとももう少しぼかした形なのか。

△（事務局）

- ・ 待機児童の増加、一方で過小規模になっている幼稚園があるという中で、今後はやはり、適正な人数で保育あるいは教育をされるというのが一番良いであろうと考える。
- ・ 地域によって幼稚園・保育園が隣にある所もあれば、ぽつんと幼稚園だけ、あるいは保育園だけがある所もある。当然「幼稚園の部分だけではなくて保育所と一緒に考えていく」というのをここで検討していくわけで、皆さんにご意見をいただいている部分はそのようになる。「どういうあり方」というのは同時に議論の中に出てくるのではないかと思うので、就学前の奈良市の子どもたちをどういう風な方向性で、あるいは方針でもって教育なり保育をしていくのがいいのかを含め、統合再編の部分を幼稚園と保育園を両方含めて考えていく、というのが議論していただきたい部分になる。

○（C委員）

- ・ 具体的に固有名詞などを出して議論して良いということか。

△（事務局）

- ・ 地域的な部分で異なるというか、北西部では相当の待機児童数が出てきているし、また中心市街地でも出ている。それ以外の所は保育所の待機児童もそれほどではなく、今の状態でよい所もある。加えて幼稚園が過小規模になってきている。しかし、立地が上手く整っていて隣に幼稚園がある、という地域もあれば保育所同士ある所もあるし、民間の保育所の設置も地域によりばらつきがあるので、地域性というものは当然ある。北西部は働きに行っておられる方が多く、そういう中でどういう保育のあり方

が良いのか、あるいは数はどれくらいが良いのか、そしてまた子どもたちはどれくらい
の人数で教育・保育されるのが良いのか、というあたりでご意見をいただきたいと
思う。

○（会長）

- ・ ここでもやはり、具体的にいろんな議論の中で可能性を追求するというので、是非忌憚のないご意見をいただきたい。

○（D委員）

- ・ 「幼稚園と保育所を一緒に幼保再編」なので一緒になるということだが、地域によっては幼稚園あるいは保育所のない地域もある。そのへんをどのようにするのか。また待機児童のことも言われておりますが、保育所のない所では幼稚園だけで、しかも年々幼稚園に入園して来られる方が少なくなっている。ただ、小学校にあがると、保育所からも来られるので人数は倍ほどにはなる。それを上手く活用して幼保連携の施設へ通われたら皆さんも苦勞せずに済むのではないか。私の地域の幼稚園ではそのようなことが今問題になっている。また、保育所に通うにもお母さんたちが仕事に行く前に保育所まで送っていかなければならないこともあり、通勤の途中にある保育所に入れる場合はあまり問題がないが、逆の方向へ行っておられる方もたくさんおられま
すので幼保一体化してもらったら助かると思う。
- ・ 是非幼保の再編には力を入れて頑張っていきたいと思う。

○（会長）

- ・ 他にございませんか。

○（E委員）

- ・ 保育園の中で認可外の保育所の実態について把握されていることと、どういう風に認識されているかということ伺いたい。

△（事務局）

- ・ 認可外の保育所ですが、事業所内保育施設ということで 15 園、それ以外に 14 園ある。これは市へ届出ている認可外保育所で、それ以外に少人数を預かっておられる所もあるかもしれないが、市のほうで把握しているのはこれだけの園である。園に何人の子どもがいるのかは様々だが、比較的少ない人数で運営してもらっているの
ので、多いところで 30 名にも満たない。手元にデータが揃っていないためはっきりしたことは申しあげられない。

○（会長）

- ・ ここに入っている人は正式に待機児童の希望者の中に入っているのか。

△（事務局）

- ・ 入所申し込みをする時に、子どもさんが今どういう状況なのかを記入するのだが、「認可外保育所に預けています」という方も中にはおられる。今は認可外に預けているが、できるなら認可保育所へ預けたい、ということで申し込みをされる方もいる。

○（B委員）

- ・ 保護者のニーズの多様化というのは何度も出て来ているし、そういうことはあると思う。しかし、適正規模ということを考えるときに、幼稚園ですごく少ない園児数の所があり、私がもしそこに子どもを行かせていたら、やっぱり一番心配なのは「1人で集団生活を経験せずに小学校へ行くというのはどうなんだろう」というすごく強い思いがある。ただ、少ない所は少ないなりのニーズがあって少ないのだろう、とは思っているのだが、先ほど地域差という話もあったが、その地域にある幼稚園と保育所の数とか位置関係とかいろいろあると思うが、何故そこが少ないのかの理由、ここまで少なくなってしまった背景、というか親御さんのニーズというのは何があってここまで来たのか、ということがわからないと言いは悪いですが、人数が少ないから闇雲に潰して統廃合というのはおかしい話だし、このあたりの背景の調査や、地域性とか「ここは将来子どもの数が増えそう」「ここはちょっと増えそうにないな」という地域の情報はどうなっているのかという疑問が沸き起こる。

△（事務局）

- ・ 精華、帯解、それに田原地域の子どもの数が年々減っているのは事実である。今後増える見込みも非常に少ないという状況である。鼓阪もそうだが、柳生、佐保台については、佐保台は少し増える可能性があるし、柳生についても5、6年先を見据えると少し増える傾向にはある。今はそういう状況である。

○（会長）

- ・ 実際幼稚園の過疎の問題でいくと、子どもが生まれてすぐの保護者の声を聞き、将来どうするのかを全部調査している。その推計を基にみるとどんどん減ってきていて、実際の数以上に将来は非常に厳しくなっている状況のようだ。

○（F委員）

- ・ 次回でも構わないが、「奈良市全体の幼児数の推移」のデータが欲しい。無認可の保育所へ通っているケースもあるだろうし、園児数の推移を示してもらっているが、こ

れは奈良市立の幼稚園だけということなので「奈良市全体の幼児数の推移」を教えて欲しい。

- ・ できれば見通しを、生まれていない子どもをどう推定するのかという大変悩ましい問題ではあるのだが、実は、そこが考えていく上で一番大事なことなのではないかと思う。もしそういうものがあれば教えていただけたらと思う。
- ・ この委員会は幼保の一体化を前提として話が進むのかなと思いつつ、先ほど指摘があったように、我々はそれなりのニーズを把握した上で一体化を進めるべきかどうかを考えたい。幼稚園は幼稚園のままで行きたいという考え方もあり、私立では特にそうだと思うし、場合によっては市立であってもそういうこともあり得ると思う。例えば奈良市立の幼稚園では、2年保育はできているが、これは3歳児保育、満3歳児保育という風に2ステップ、ニーズに応える施策はすでに進んでいるわけなので、3歳児保育であればもう少し幼稚園児が確保できるという考え方もあると思う。その辺で何か考えがあるのなら、お聞かせ願いたい。
- ・ それから、県教育委員会などでの幼保の一体化・一元化という話の中では、教育ニーズとして「保育所で幼稚園と同じ学校教育を保障して欲しい」という声が非常に強かったように思う。もし、「幼保一体化を進める上での教育内容のニーズ」を把握しているのなら教えていただきたいと思う。

○（会長）

- ・ 次回、資料があれば是非よろしくをお願いします。

○（G委員）

- ・ 今現在の待機児童の子どもの中では、たぶん保育の部分に「重き」をおかれてる方が多いと思う。しかし、例えば認定こども園になった富雄南の場合であれば、もともと幼稚園のあった所に保育園の機能が加わったということで、短時間、それから長時間の利用児も両方増えているようだ。幼児教育は幼稚園としてすごく大切な部分があると思うので、単に待機児童の数の解消だけで、幼保を兼ね備えた施設を作っていくということだけではなく、今一度、幼児教育の大切さを広く伝えていくことも必要ではないかと思う。
- ・ 3歳児から幼稚園に行けるようであれば保育所だけでなく、3歳から幼稚園に通わせたいとおっしゃる保護者の方も多いのでそういうことも考えていきたいなと思う。
- ・ 私立の幼稚園と公立の幼稚園で持ってらっしゃるイメージというのが、言い方はおかしいかもわからないが、「ちょっと進んだ幼児教育」というのが私立の幼稚園で行われていて、公立の幼稚園ではなかなか行われていないのではないかと、という声を聞くことがある。ただ幼稚園と保育所を分けて考えている保護者の方もすごく多いと思うので、幼稚園の存在、幼児教育の大切さというものも一つの大事な部分としておきな

から検討していく必要があると思う。

○（会長）

- ・ そういった視点も含めてこれから検討していきたいと思う。

○（A委員）

- ・ 先ほどおっしゃったことと重なるが、3歳以上の保育所の待機児童が26名というのは意外と少ないなという印象だ。幼保の再編となると、その部分の人数の兼ね合いとなり、市立幼稚園は2年保育なので4歳児以上が対象となり、4歳、5歳児に限ってみてみると待機児童はもっと少ないと思う。そうすると年齢別の状況がかなり重要であると思う。また、どの地域に待機児童が多いのか。それによって認定こども園をいくつか作れば解消するようなものなのか。

△（事務局）

- ・ 今後、分析してお示しできるようにいたします。

■ 閉会

△（事務局）

- ・ 次回の第2回検討委員会は来年1月の下旬を予定しており、内容は、「次回資料を」というご意見があったものを準備し、事務局からより具体的に提案させてもらう。
- ・ 次回の詳しい日時と内容を、会長、副会長と相談し、改めて後日通知する。

○（会長）

- ・ 今説明いただいたように、待機児童の問題や幼稚園の小規模化の対策については、実は「待ったなし」のところがある。次回の1月の開催までに、意見があればメール、ファックスなどで事務局のほうに連絡いただきたい。準備の関係で1月7日を目処に提案、質問をお願いします。
- ・ いずれにしましても、奈良市の幼児教育の質を高めるため、そして奈良で子育てができて良かったと思っていただけるよう一緒に考えていただきたいと思っておりますので、2回目以降もどうぞよろしくお願ひいたします。それでは今日はこれで終わりたいと思います。ありがとうございました。